

選定保存技術保持者認定



福西 正行さん(窪垣内)

文化財の保存・修復に欠くことの出来ない伝統的な技術や技能を国が定める「選定保存技術」の保持者に、表具用手漉和紙「宇陀紙」作りの職人福西正行さんが選ばれ、11月26日認定書が交付されました。

福西さんは、「今まで先々代先代と伝えられてきた技を引き継ぐ事ができ、国の宝を次世代へ引き継ぐ為に微力ながらも宇陀紙製作を厳格に守って進んでいきたいと思っています」と語られました。

臨時議会

平成27年第4回臨時議会は、11月13日招集されました。

案件の概要は次のとおりです。

契約案件

◆河原屋地区 定住促進住宅
1号棟、2号棟、3号棟新築工事
申請負契約の締結について

(可決)

・契約方法 指名競争入札
・契約金額 48,708,000円
・契約の相手方

株式会社 ダイシン
代表取締役 和田茂樹(平尾)

◆河原屋地区 定住促進住宅
4号棟、5号棟、9号棟、10号棟
新築工事申請負契約の締結について

(可決)

・契約方法 指名競争入札
・契約金額 62,640,000円
・契約の相手方 株式会社 上田工務店
代表取締役 上田秀幸(宮滝)

町内から応募の2点の製品が 日本グッドデザイン賞受賞

平成27年度の日本グッドデザイン賞に吉野町内から応募した2点の製品が選ばれ、11月4日、東京六本木を会場にその授賞式が開催されました。

グッドデザイン賞は昭和32年に創設された国内最大のデザインを評価推奨する制度で、デザインを通じて生活や産業、そして社会全体を豊かにして行こうとする取り組みです。今年はこの10年来最多となる3,658件の応募の中から優れたデザイン性を備えた1,337件の作品がグッドデザイン賞に認定されました。



【文様割箸】

吉野町からは、割箸普及を目的とした産官学協働によるプロジェクトで考案された「文様割

箸」と、Re:吉野と暮らす会が中心となつて考案した「地域産材で作る自分で組み立てるつくえ」が認定されました。

「文様割箸」は、割箸に必勝祈願の市松文様や健康長寿を願う亀甲文様など、6種の文様を吉野高校の生徒がレーザーカッターで彫刻。付加価値を高めています。また、「地域産材で作る自分で組み立てるつくえ」は、子どもたちが机の天板部を自分たちで組み立て、卒業の時に記憶と一緒に持ち帰ることが出来るデザインです。



【地域産材で作る自分で組み立てるつくえ】

認定された2点の木製品は、吉野の先人たちの優れた伝統の技を引き継ぎ、そこに斬新な付加価値を加えることで、新たな可能性が見いだせることを証明しました。

人権の筆記用具も友だちも大切に！



12月4日、町内の小学校、中学校、高等学校、行政機関、企業などに人権標語が刻まれた筆記用具とポスター等が人権擁護委員によつて配布されました。

これは、12月4日から10日までの人権週間に合わせて毎年行われているもので、人権について学校や家庭、職場などお互いに話し合う機会をもってもらい、人権の大切さを再確認してもらうことを目的として行われています。

毎日の学校生活の中で、友達を思いやる気持ちなど、人権の大切さを学ぶ良い機会になったのではないのでしょうか。